

明治学院の歴史 I

Keyword で読み解く学院史

2021 年度 1 年ガイダンス

2021/4/16

Keyword I 3人の宣教師



関連図書案内



『明治日本とキリスト教：蒔かれた種』

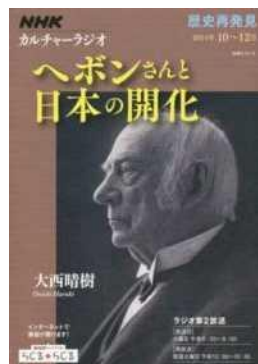
宮崎 克則 (監修) / 西南学院大学博物館

長い禁教の時代を経て、宣教師たちが再び日本の地を踏む。黒船来航によって西洋近代と対峙し、急速に近代化が進められていくなかでキリスト教は伝播した。

安政五カ国条約では来日する外国人の信教の自由が認められたが、日本人に対しては依然として禁制が続き、長崎浦上ではキリシタンが検挙される事件も起こる。その一方で、宣教師と出会い聖書の教えに胸を打たれ、密かに洗礼を受けた者もいた。彼らはのちに伝道者や教育者として、日本の近代キリスト教の礎を築き、明治日本に蒔かれた種は、教育、文化、そして社会福祉といった様々な分野で豊かに実を結んでいく。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『ヘボンさんと日本の開化』

大西 晴樹 著 / NHK 出版

ヘボン式ローマ字の発明者が見た文明開化

幕末に宣教医として来日し、無償医療をしながらヘボン式ローマ字を発明したヘボン博士。日本を深く理解し、和英辞典の編纂、英語教育の普及など、豊かな才能で明治の文明開化を推進したその足跡をたどる。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『新島襄と明治のキリスト者たち』

本井 康博 著 / 教文館

知られざる明治キリスト教界の人間模様。宣教師や、多くの明治期プロテスタントの指導者たちと関わり、教派間の友好関係と衝突・軋轢の狭間にいた新島襄。記録や手紙、ミッション資料から人物交流を読みとくとき、新島本人と、各教派のキリスト者たちそれぞれの知られざる人物像を浮き彫りにする。

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『旅する長崎学 近代化ものがたり』

山口 貴生 著 / 文芸社

近代化の学校 西から東へ送った風 巻頭特集・近代夜明け前「長崎遊学者」群像

◆「長崎蘭学」の両雄・本木良永と志筑忠雄 / ◆辞書「ドゥーフ・ハルマ」が蘭学を飛躍させた / ◆シーボルトの鳴滝塾で全国の秀才が学ぶ

◆海軍伝習所でのオランダ人教官の教え / ◆医学伝習所でポンペが教えた近代医学 / ◆英語伝習所でフルベッキに学んだ人々

◆近代活版印刷の父・本木昌造の業績 / ◆上野彦馬は日本最初のカメラマン / ◆新聞の夜明けに君臨した福地桜痴

[資料検索 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[簡易検索 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



1 3人の宣教師

J.C. ヘボン

J.C. Hepburn(1815-1911)

略歴

1815(文化12)年 米国ペンシルベニア州に生まれる
 1836(天保7)年 ペンシルベニア大学医科卒業
 1843(天保13) - 45(弘化1)年
 医療伝道のため中国廈門へ
 1859(安政6)年 神奈川に到着、成仏寺に居住
 1861(文久元)年 神奈川宗興寺で日本人に施療を開始
 1863(文久3)年 横浜居留地で夫妻がヘボン塾を開く
 1867(慶応3)年 『和英語林集成』初版を刊行

1876(明治9)年 横浜・山手に転居
 ヘボン塾はJ.C. バラが継ぎ、バラ学校と称す
 1880(明治13)年
 バラ学校を東京に移し、築地大学校と称す
 1880年代まで 聖書翻訳事業に携わる
 1889(明治22)年 明治学院の初代総理(学院長)となる
 1892(明治25)年
 横浜指路教会献堂式の後、ヘボン夫妻は帰国
 1911(明治44)年 ヘボン召天、96歳

1 出身校・教派

ペンシルベニア大学
 米国長老教会

2 来日年・場所

1859(安政6)年
 10月18日
 神奈川到着

3 主な教え子

高橋是清(政治家)
 益田孝(実業家)
 林董(政治家)
 ほか

4 主な功績

ヘボン塾開設
 施療所開設
 和英語林集成編纂
 聖書翻訳
 横浜指路教会設立

明治学院での
 彼のはたらき

の礎を築いた

MEMO →



2 3人の宣教師

S.R. ブラウン

S.R. Brown(1810-1880)

略歴

1810(文化7)年 米国コネティカット州に生まれる
 1832(天保3)年 イェール大学卒業
 1838(天保9)年 ユニオン神学校卒業、中国へ渡る
 1839(天保10)年 マカオ到着、モリソン記念学校長となる
 1847(弘化4)年 夫人の病気のため帰国
 1859(安政6)年 ニューヨークを出帆、神奈川に到着
 1866(慶応2)年 キリシタン禁制の高札撤去に努力
 1867(慶応3)年 横浜の自宅を焼失し帰国

1869(明治2)年 再び来日し、新潟英学校教師となる
 1870(明治3)年 横浜・山手211番に住む、修文館教師となる
 1873(明治6)年 ブラウン塾(神学塾)を開設
 1874(明治7)年 新約聖書翻訳委員社中発足、委員長となる
 1879(明治12)年 病気のため帰国、新約全書翻訳が完了
 1880(明治13)年 マサチューセッツ州モンソンで召天、70歳

1 出身校・教派	2 来日年・場所	3 主な教え子	4 主な功績
ユニオン神学校 アメリカ・オランダ 改革教会	1859(安政6)年 11月1日 神奈川到着	植村正久 押川方義 井深梶之助 本多庸一 奥野昌綱 他	ブラウン塾開設 聖書翻訳

明治学院での
彼のはたらき

の礎を築いた

MEMO →



3 3人の宣教師

G.H.F. フルベッキ

G.H.F. Verbeck(1830-1898)

略歴

1830(天保元)年 オランダ・ツァイストに生まれる
 1852(嘉永5)年 オランダを離れ渡米(ニューヨーク)
 1854(安政元)年
 コレラにかかり、病床で外国伝道を志す
 1856(安政3)年 ニューヨーク州オーバン神学校に入学
 1859(安政6)年 長崎に到着、宗福寺に住む
 1860(万延元)年 自宅に4名の英学生を迎える

1869(明治2)年 上京し、開成学校の教師となる
 1870(明治3)年
 大学南校(開成学校を改称)の教頭となる
 1873(明治6)年 政府の法律顧問となる
 1877(明治10)年 築地の東京一致神学校で教える
 1878(明治11)年 旧約聖書翻訳委員となる
 1886(明治19)年 明治学院神学部教授となる
 1898(明治31)年 赤坂葵町の自宅で召天、68歳

1 出身校・教派

オーバン神学校
 アメリカ・オランダ
 改革教会

2 来日年・場所

1859(安政6)年
 11月7日
 長崎到着

3 主な教え子

副島種臣
 大隈重信
 伊藤博文
 大久保利通
 江藤新平 他

4 主な功績

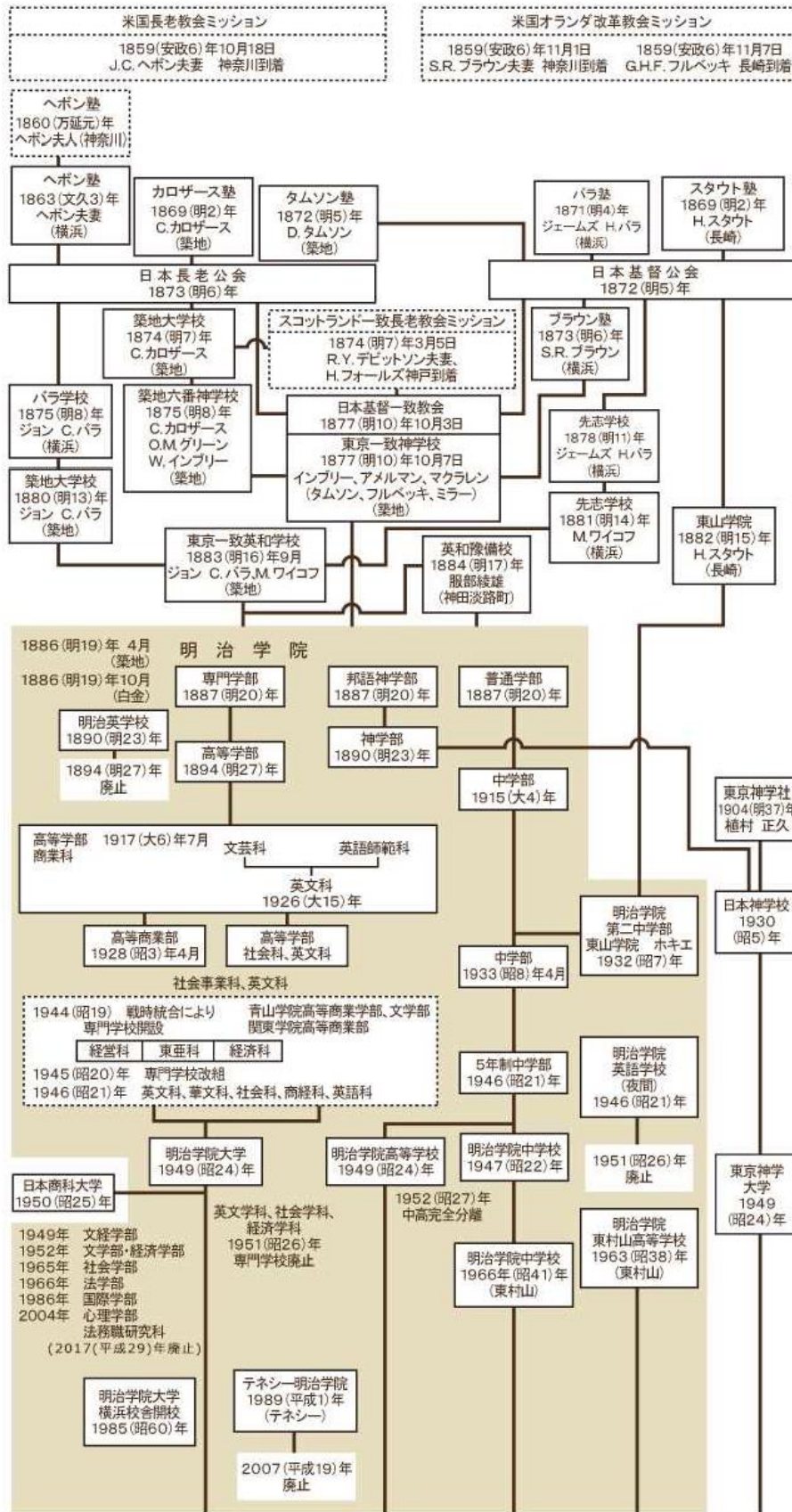
大学南校
 (現・東京大学)
 教頭
 明治学院初代理事

明治学院での 彼の果たらき

の礎を築いた

MEMO →

明治学院発展系統図



作成編集 1997年7月
 中島耕二
 坂田雅雄
 2010年12月 一部修正
 2017年4月 一部修正



1900年初頭のサンダム館と宣教師館(現大学3号館からみたチャペル、高校校舎方面)



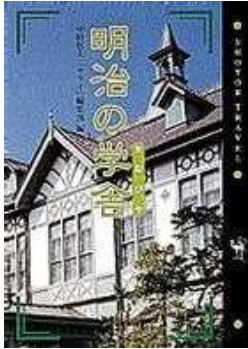
1931年中学部教員生徒一同(中学部校舎とともに・現グラウンド)

MEMO

Keyword II 歴史的建造物



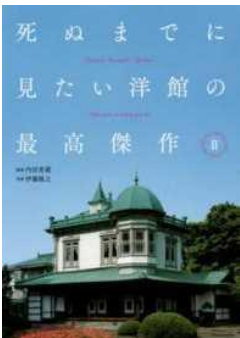
関連図書案内



『明治の学舎』

中村 哲夫 著／小学館

明治の時代に建設され、今なお当時の姿をとどめている「校舎」を日本全国から92校!、網羅しました。これらの校舎は、教育史、建築史的にみても貴重なだけでなく、「観光として訪れても楽しい所ばかりです。たとえば石川啄木の小学校の近くには、当時下宿していた茅葺き屋根の家もあつたり、赤煉瓦の旧制五高本館には夏目漱石に関するモノが多く、漱石が作った入学試験問題集があつたり。『サライ』の96年18号で掲載した「中・高・大学編」をベースとし、著者中村哲夫氏の、建築の本としても、旅の本としても楽しく読める文章を中心に、大幅に写真も追加。書影は紀伊國屋書店より。



『死ぬまでに見たい洋館の最高傑作II』

内田 青蔵(監修)／エクスナレッジ

日本全国から洋館の名建築を32館厳選! ジブリ作品『借りぐらしのアリエッティ』に登場する屋敷の参考イメージになった「盛美館」や、NHK朝の連続テレビ小説『花子とアン』で登場した「起雲閣」、同じくNHKの土曜ドラマで放送された、レイモンドチャンドラー原作の「ロンググッドバイ(主演:浅野忠信)」で、小雪と古田新太演じる上井戸家の舞台となった「ヨドコウ迎賓館」などをはじめ、全国の特徴ある魅力的な洋館が満載。書影は紀伊國屋書店より。



『東京の名教会さんぽ』

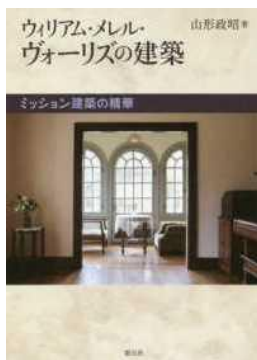
鈴木 元彦 著／エクスナレッジ

心が洗われる東京の美しい聖堂

震災・戦災を生き延びた建築遺産から現代の巨匠による名建築まで、東京、神奈川、千葉、埼玉の一度は訪れたい祈りの空間を厳選。

本書は効率よく見に行けるようにエリア別に紹介。教会の歴史、建物の特徴を写真とイラストを使い分かりやすく解説しています。また巻頭の「教会のキホン」では、教会の歴史と聖堂の基礎知識が学べます。

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://www.opac.jp)



『ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築』

山形 政昭 著／創元社

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ率いる建築事務所では、大正から昭和の戦後にかけて膨大な数の洋風建築を手がけた。今なお居心地のよいその空間を愛好するファンは数多い。

国内各地に現存するキリスト教会、ミッションスクールから洋風住宅、商業ビルに至る代表建築を探訪し、なくなった名建築とともにその見どころを解説する。カラー口絵を含む図版約300点と、年譜・建築作品リストなど基礎資料も収載したヴォーリズ研究の集大成。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://www.meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://www.opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://www.opac.jp)

歴史的建造物

校舎



1 記念館



神学部校舎兼図書館。いまや学院のシンボルの一つにもなっている記念館ですが、建築当初は全レンガ造りでした。ところが、1894年の大地震で大破し、2階部分が現在のように作り直されました。

2 ヘボン館



ヘボンが『和英語林集成』の版權を丸善に譲渡し、その代金を明治学院に寄付をしたことで建設された寄宿舍です。当時東京随一の云われた木造建築です。1911年ヘボンが召天した同日焼失しました。

3 サングラム館



白金に明治学院が開学し、最初に建てられた建物です。アメリカ・オランダ改革教会と関係のあったサングラム夫人から亡夫の記念にと寄付した寄付金で建設され、普通学部校舎として使われました。

4 ハリス館



もとは東京一致英和学校の建物で、米国長老教会の信徒ハリスからの寄付金を得て、築地から白金に移築した建物です。記念館ができるまで神学部の仮校舎に、その後は寄宿舍となりました。

明治学院と島崎藤村

島崎藤村が明治学院に在学していた頃、神学部校舎兼図書館（現記念館）が白金の地に建てられました。煉瓦造りのハイカラな建物の2階には図書・雑誌の閲覧室がありました。藤村は、小説『桜の実の熟する時』の中でこう書いている。「・・・まだペンキの香のする階段を上って行って二階の部屋へ出ると、そこに沢山並べた書架がある。・・・書架で囲まれた明るい窓のところには小さな机がおいてある。・・・」

藤村はバーズの詩集をこの図書館で見つけ出し、道の途中で美しい珍しい草花を見つけたような心持ちをもってそれを耽読したそうです。その建物は「明治学院記念館」として、現在も使われており、島崎藤村が読書したフロアは現在は会議室として使用されています。

設計は、H.M. ランディス教授といわれています。赤煉瓦、瓦葺きの2階建てで、当時アメリカで流行したネオゴシック様式。延面積は約516平方メートル。
(明治学院歴史資料館 HP より転載)

MEMO

2 歴史的建造物

宣教師館



1 インブリー館



1889(明治22)年頃の建築・19世紀後半のアメリカで流行した住宅様式。W.インブリー博士が長く住んでいたため、この名前と呼ばれています。東京にある現存する宣教師館で一番古い建物です。

2 バラ館



J.C.バラにちなんで名付けられたバラ館は、1942年に老朽化により取り壊されました。

3 ランディス館



バラ館、ライシャワー館とともに同時期に立てられたと考えられている宣教師館です。ライシャワー館同様、1964年高校校舎建築のために取り壊されました。

4 ライシャワー館



もとはヘボンが住むために建築した宣教師館。マクネヤ、ワイコフなどが住み、その後ライシャワーが住みました。1964年に高校校舎のため取り壊されることになり、東村山に移築されました。



明治学院バス停と銀杏の木

学院の正門に近く天を摩する大銀杏があるが、この巨木は大正九年までは学院の構内にあったものである。大正十年一月から東京市は京浜国道の都電高輪北町停留所(当時は庚申堂前)のあたりから、現在の高輪警察署と消防署の間を通り、二本榎通りを横切って白金小学校前を通り日吉坂に出る道路を造ることになり、そのため学院南側の土地は約三米幅けずり取られることになった。(中略)この土地譲渡には一つの条件があった。それはこの大銀杏をきらないということであった。

(『明治学院九十年史』より)

MEMO →

3 歴史的建造物

礼拝堂



1 ミラー記念礼拝堂



ミラー宣教師から寄付を受けて建設された、明治学院で初めての礼拝堂。1903年(M36)に完成しましたが、1905年、1909年に起きた地震で大破し、使用できなくなりました。このミラー記念礼拝堂の廃材を利用し、コストを削減して建てられたのが、現在の明治学院礼拝堂です。

2 明治学院礼拝堂



1916(大正5)年に落成しました。イギリス・ゴシック様式でW. M. ヴォーリズによる設計、1931(昭和6)年から1934(昭和9)年にかけて両袖を拡張し、空から見ると十字架の形をした現在の姿となりました。

パイプオルガンが荘重に響く、明治学院の象徴です。チャペル西側(高等学校校舎側)には島崎藤村自筆の明治学院校歌碑があります。



明治学院と御真影

「御真影」(天皇・皇后の写真)の下付に関しては「奉安する適当な場所がない」としてのびになっていました。

しかし、ホキ工院長事務取扱は文部省から再三にわたり注意を受け、ついに礼拝堂の東南の一角を改造して「奉戴」することとなりました。

文部省は「御真影」は外国人に手渡すことはできないとして、ホキ工院長事務取扱に随行した加藤幹事に渡されました。

学院では学生を含め仰々しく出迎えました。

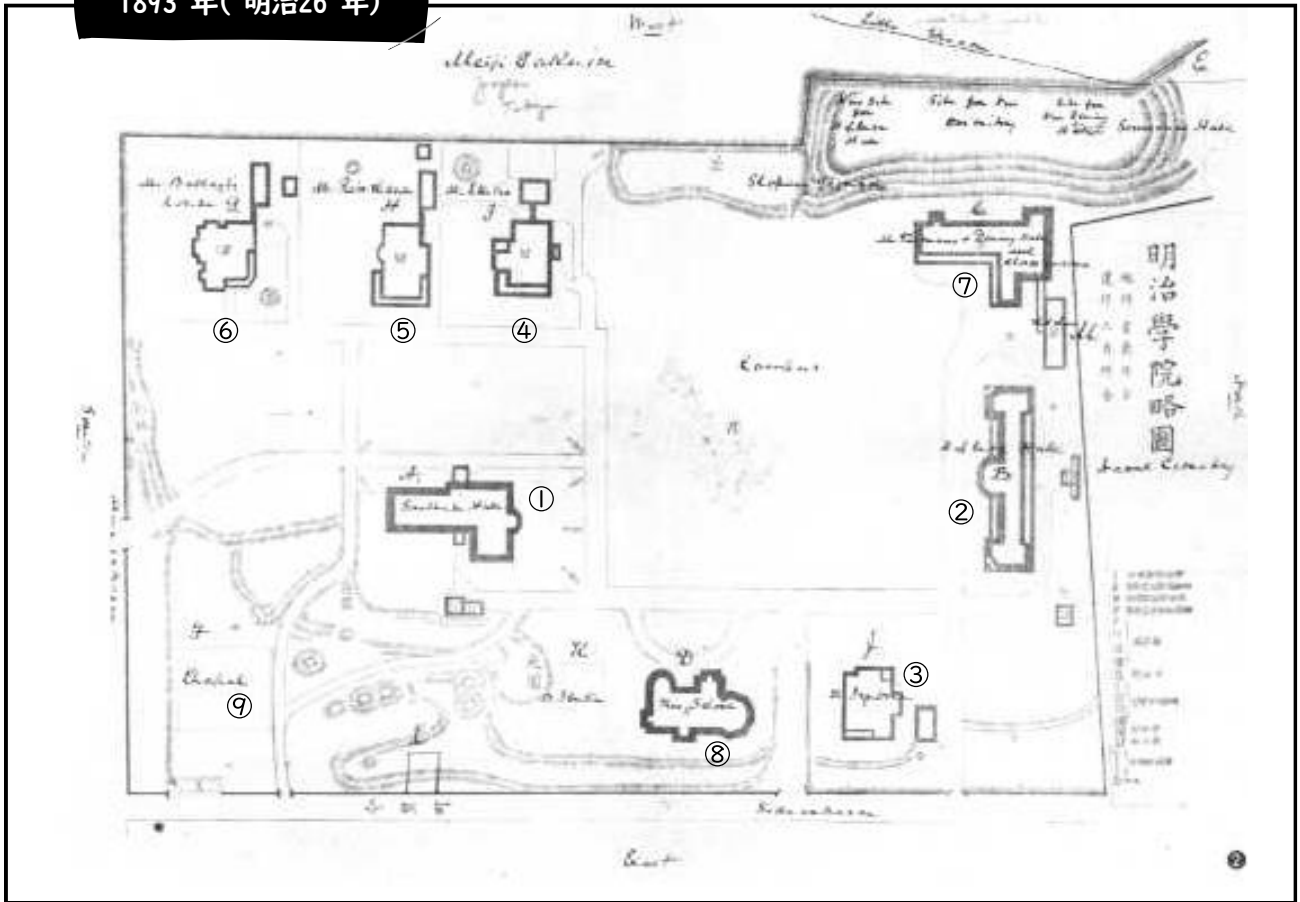
左の画像のように、現在も礼拝堂の東南の一角に安置された場所が残されています。

(明治学院歴史資料館HPより転載)

MEMO →

明治学院白金

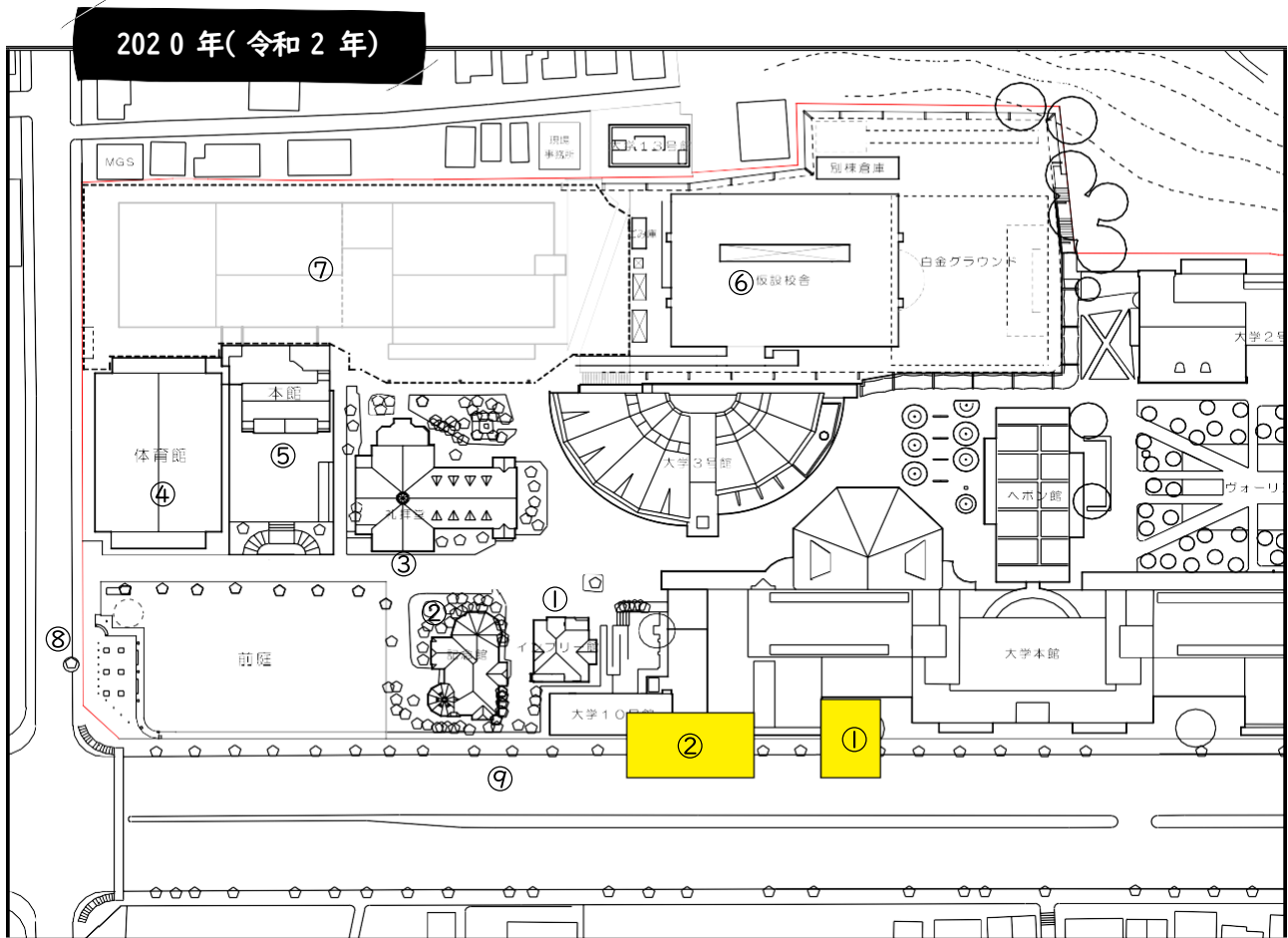
1893年(明治26年)



- ① サンドム館: 1887年(M20) ~ 1914年(T3)
- ② ヘボン館: 1887年 ~ 1912年(M45)
- ③ インブリー館: 1888年(M21)頃 ~ 現在
- ④ ランディス館: 1888年頃 ~ 1964年(S39)
- ⑤ ライシャワー館: 1888年頃 ~ 1964年東村山移築
- ⑥ J.C. バラ館: 1888年頃 ~ 1942年(S17)
- ⑦ ハリス館: 1888年 ~ 1914年(T3)
- ⑧ 神学部校舎兼図書館: 1890年(M23) ~ 現在
- ⑨ ミラー記念礼拝堂: 1903年(M36) ~ 1909年(M42年)

MEMO

キャンパス今昔



- ①インブリー館：1964年（S39）現在地に曳家 [補足]
- ②記念館：1966年（S41）現在地に曳家
- ③明治学院礼拝堂：1916年（T5）～
- ④高等学校体育館：1980年（S55）
- ⑤高等学校本館：1991年～
- ⑥高等学校仮設校舎：2020年～2022年（予定）
- ⑦高等学校新校舎：2022年8月～
- ⑧1920年（T9）まで明治学院敷地内。バス停に隣接している銀杏の木を残すことを条件に、東京市（当時）に譲渡。
- ⑨1966（S41）年国道1号線（桜田通り）の道路拡幅のため、東京都に譲渡。

MEMO

Keyword III ミッションと明治学院



関連図書案内



『長老・改革教会来日宣教師事典』

中島 耕二 著 / 新教出版社

本書は米国長老教会、アメリカ・オランダ改革教会及びスコットランド一致長老教会から日本に派遣された宣教師のうち、1859年に来日した初代から、上記長老主義教会三ミッションの合同により日本基督一致教会が設立された、1877年前後までに到着した26人について、来日順に時系列的、包括的にその働きをまとめたものである。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『横浜開港と宣教師たち』

横浜プロテスタント史研究会 (編集) / 有隣堂

1859年の開港に伴い、横浜にはヘボンやS.R. ブラウンなど、多くの宣教師が来日した。日本においてキリスト教は長く禁教とされてきたが、まもなく伝道が許され、彼らは、和英辞書の編纂や聖書翻訳、教会の創立など、「異教の地」でさまざまな活動を展開した。また、M.E. キダーを始めとする女性宣教師は、ミッション・スクールを創設して女子教育に大きく貢献した。本書は、各ミッションの伝道本部やゆかりの教会、学校などに残る資料をもとに、横浜のキリスト教文化の基礎を築いた十一人のアメリカ人宣教師の足跡を紹介する。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『キリスト教学校教育史話』

大西 晴樹 著 / 教文館

宣教師の働きから芽生えたプロテスタント・キリスト教による学校教育は、近現代史にどのような足跡を残し、信教と教育の自由を脅かす諸問題とどう対峙してきたのか？ 明治学院大学、キリスト教学校教育同盟で重職を歴任した著者が、日本のキリスト教学校教育の淵源からその将来までを通観する小史。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



『横浜の女性宣教師たち』

横浜プロテスタント史研究会 (編集) / 有隣堂

幕末の開港に伴い、外国人の居住を認めた横浜では早くからキリスト教が受容され、多くの宣教師たちが来航した。男性宣教師は聖書翻訳や教会設立、神学校創立などに勤しんだが、牧師への道が閉ざされていた女性宣教師は、学校教育や文化福祉活動を通してキリスト教の伝道を行った。本書に登場する女性宣教師は、宣教師の妻として働いた女性、ミッション・スクールの創設や運営、教育に携わった女性、視覚障害者支援や孤児救済、医療などの福祉活動に力を注いだ女性、関東大地震で被災、戦時下に抑留生活を強いられながらも復興を支えた女性たちなどである。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

「ミッション」とは何？

ミッションボード（欧米教会伝道局）のこと

宣教の一端として作った教育機関

=ミッションスクール（キリスト教主義学校）

Q. 明治学院創立に関わったミッションを 3 つあげてみよう

1. _____
2. _____
3. _____

0. 明治初期ミッションの貢献

1. 英語、神学（聖書）の学問的内容
2. 教師等の人的貢献
3. 校舎建築費などの財政的貢献

Q. 宣教師たちの生活費はどこが負担しましたか？

A. _____

1. 訓令12号事件(1899年)

文部省からだされた、宗教教育の禁止令

Q. 宗教教育を選択するとどうになりましたか？

A. _____

Q. 宗教教育放棄するとどうになりましたか？

A. _____

2. 戦時下のキリスト教教育

1940年 ミッションからの援助を辞退

↓

宣教師たちは母国に帰国

Q. 明治学院で戦時中でも欠かさなかったことは何ですか？

A. _____

3. 戦後のミッションとの関係

1947年 英語教師として宣教師たちが来日

戦火で破損した校舎の建築資金の援助物質的援助

Q. ミッションからの支援の名残はどこにありますか？

A. _____

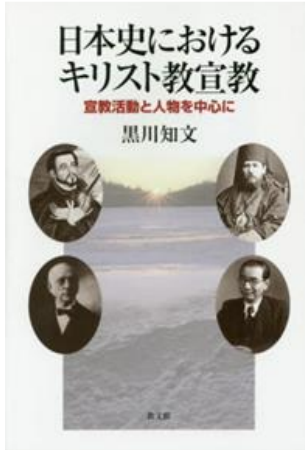
まとめ

MEMO →



明治学院を知る I 冊

明治学院に関連する一冊、まだまだあります！ 一部ですが紹介しますので、読んでみてください。



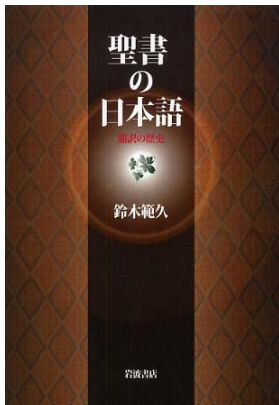
日本史におけるキリスト教宣教

黒川知文著／教文館

キリシタン時代から現代までを、宣教の観点から概観した日本キリスト教史。各時代を代表する宣教活動を取り上げ、宣教に従事した人物を紹介しつつ、わが国独自の宣教論を探る。カトリック・正教会・プロテスタントの知られざる諸活動にも光を当てる、エキュメニカルでユニークな入門書

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



聖書の日本語

鈴木範久著／岩波書店

神、聖霊、天国、洗礼（浸礼）、愛…。日本語という池に落とされた聖書の言葉。そこに広がった波紋を、試行と迷走の翻訳過程に読む。中国語訳から明治元訳へ、そして大正改訳から新共同訳まで、聖書の翻訳が、そのつどどのような意味で文化的な事件であったのかを、具体的に描き出す。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



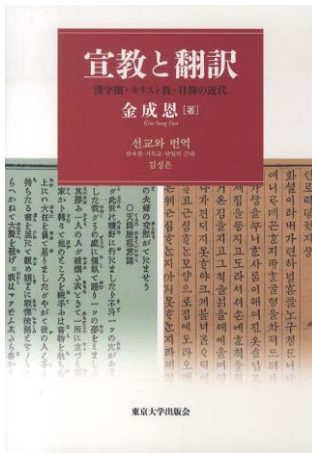
オルガンの文化史

赤井励著／青弓社

明治期の日本にオルガンを導入した宣教師と、その音に魅了された若き音楽家や技術者たち。西洋音楽導入の機軸であり、文化史だけでなく産業発達史にも重要な意味をもつオルガンの歴史を、膨大な資料を精読し、新しい視点からたどった労作

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



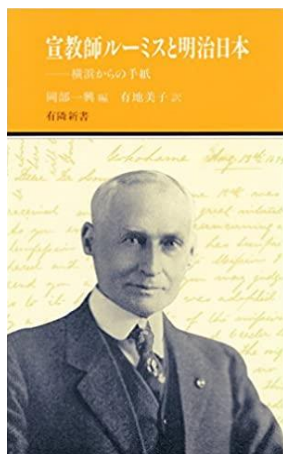
宣教と翻訳

金 成恩著／東京大学出版会

近代東アジアにおいて、キリスト教宣教師たちの布教活動を、日本と韓国の人々はいかに受容してきたのか。キリスト教文献の翻訳語をめぐる議論、それによって文体がいかにかわってきたのか。日韓における聖書や小説、新聞の文章を通してこれらの問いを明らかにする比較文学研究の試み。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



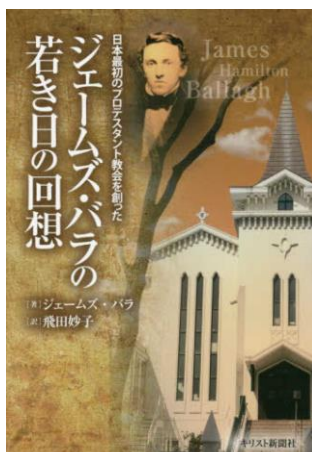
宣教師ルーミスと明治日本

岡部 一興著／有隣堂

ヘンリー・ルーミスは、切支丹禁制の高札が撤去以前の 1872年5月に来航し43年、日本の土となったアメリカ人宣教師。1875年、日本初の長老派教会である横浜第一長老公会を誕生させ、讃美歌集の編集にも力を注いだ。ルーミスが四年間に米国長老派協会宛に送った書簡を翻訳。

[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)



ジェームズ・バラの若き日の回想

ジェームズ・バラ 著／キリスト新聞社

本書は米国オランダ改革派教会の宣教師ジェームズ・ハミルトン・バラ(1832～1920)の初期の自伝である。バラは日本の開国2年後に来日し、禁教の中で1872年に日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会を設立。1919年に帰国するまで58年間にわたり、ひたすら日本伝道に尽くした。

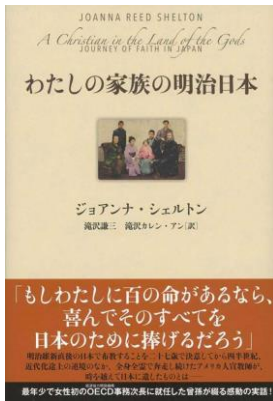
[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

わたしの家族の明治日本

ジョアンナ シェルトン 著／文藝春秋



今から百四十年前、西南戦争の傷跡残る日本に宣教師としてアメリカからやってきた T・アルクンダ、27 歳。亡くなるまでの四半世紀、ひたすら日本のために身を捧げて奔走し続けた彼が、明治維新後の混乱の中で何を考え、どう生きたのか。最年少で女性初の OECD 事務次長に就任した曾孫が綴る。

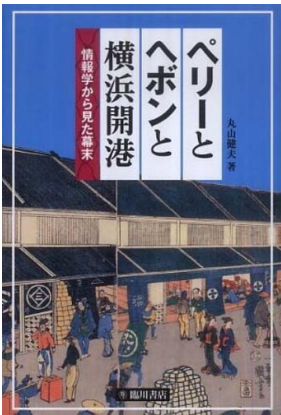
[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

ペリーとヘボンと横浜開港

丸山健夫著／臨川書店



横浜開港を軸に、ペリーとヘボンの来航にまつわるエピソードから、当時の対外交渉事情（特に辞書や通訳等の言語面）、それらを理解するためのちょっとした小知識まで「へえ」と思わず声が出るエピソード満載の本書は、情報学という見地から幕末を語る、他に類を見ない、知的好奇心を刺激する 1 冊。

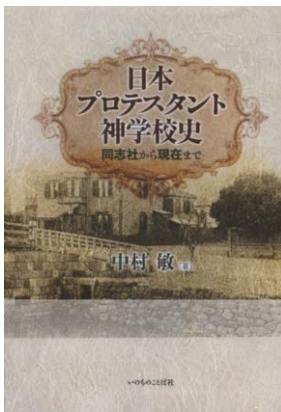
[明治学院大学蔵書検索 OPAC \(meijigakuin.ac.jp\)](http://meijigakuin.ac.jp)

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

[所蔵一覧 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

日本プロテスタント神学校史

中村敏著／いのちのことば社



教職者の養成や一般信徒の教育・訓練への貢献といった目に見える伝道や教会形成上の重要な働きとともに、日本の教会の神学形成の営みにおいても大きな役割を果たしてきた神学校。その明治初期から今日までを概観する、本格的な研究書。

[所蔵一覧 明治学院高等学校図書館 \(opac.jp\)](http://opac.jp)

野球を歩く 日本野球の歴史探訪

小関 順二著／草思社



野球史を知ることには野球をもっと面白く見ることにつながる。俳人正岡子規 が打って走った上野の球場から、スタルヒンが投げた大宮公園球場、満潮になると水が出た洲崎球場跡地など、15 の球場を巡り、日本野球史の事件簿を豊かなエピソードでつづる無類に面白い野球エッセイ。資料写真多数挿入。書影は紀伊國屋書店、内容は「BOOK」データベースより